



4. 介護を巡る諸課題について

- ①介護人材の確保について
- ②介護サービス提供環境の整備について

これからもますます高齢化が進む日本の現状で、介護は大きな問題であることは、誰の目にも明らかです。私はまずもって介護人材の処遇改善が重要だと考えますが、それだけで十分な人材を確保することは難しいのではないかとも思っています。そこで、介護人材の確保にどのように取り組んでいくのか尋ねました。

また、「家族を介護施設に入れたいと思うのだが、空いていなくてなかなか入れない。」「介護施設の費用が高くて困っている。」という声を聞くことから、県内の介護施設料の実態について質問しました。

さらに、こうした実態も踏まえ、安心して介護サービスを受けられるよう、介護サービス提供環境の整備について、市町村と連携しどのように取り組んでいくのか尋ねました。



5. ヤングケアラーについて

大人に代わって家事や家族の世話を日常的に担うヤングケアラーは、今、大きな社会問題となっています。県では、3年ぶりに実施する実態調査を行い、昨年10月にまとめた調査結果によると、県内のヤングケアラーは2,100人と3年前の調査から倍増しており、改めて問題の深刻さが浮き彫りになっています。

埼玉県など他の自治体では、ケアラー条例やヤングケアラーに特化した条例の制定が進んでおり、いずれも、ヤングケアラー等を社会全体で支えることを目的として、基本理念、自治体の責務や住民、事業者、関係機関等の役割を定め、推進計画や基本方針の策定等を規定しています。

そこで、大分県においてヤングケアラー条例の制定も含め、ヤングケアラーへの支援にどのように取り組んでいくのか質問しました。

【答弁】 県では専門職員による相談窓口を開設するとともに、SNS等でも相談に対応している。一方、2023年6月の子ども・若者育成支援推進法の改正により、地方公共団体の支援対象にヤングケアラーが明記されるなど法体系が整備されてきたことから、自治体ごとの条例の必要性は低下しつつある。

県として、学校現場と連携して実効性のある支援体制を整備することを優先して取り組んでいく。

6. 県立高校における全国募集について

大分県では、大分市の県立高校への集中化が進み、周辺部の高校では定員確保が厳しくなっています。定員確保の取り組みとして全国募集があります。現在、国東高校、安心院高校、久住高原農業高校の3校で行われており、来年度から日田林工高校も全国募集が始まります。

そこで、県立高校の全国募集の更なる拡大に取り組んでいくつもりがあるのか、さらに県立高校を守っていく覚悟を問いました。



私が所属しています県民クラブもHPを開設していますので御覧下さい。

セキュリティ強化のため、HPのアドレスが変わりました

大分県議会 県民クラブ

検索

<https://kenmin-club.com/>

